

一般演題 8 O8-02

当院で突発性難聴に対し他院の耳鼻咽喉科と連携を取り治療改善した症例

○小栗隆良

医療法人 徳洲会 成田富里徳洲会病院 臨床工学科

当院の耳鼻咽喉科は 2022 年より診療を開始。通院による内服薬治療のみで HBO は行なっていませんでした。今回、他院の耳鼻咽喉科と連携を取ることににより HBO と点滴治療との併用で治療改善を検討しました。対象期間は 2024 年 1 月から 2025 年 1 月までに突発性難聴に対して施行した 36 症例とし他院からの紹介 18 症例と当院の外来耳鼻咽喉科を受診した 18 症例としました。対象比較には A 群は他院紹介から 1 週間以内で治療開始。B 群は他院紹介から 1 週間以上経過してから治療開始。C 群は非紹介から 1 週間以内で治療開始。D 群は非紹介から 1 週間以上経過して治療開始としています。改善効果の指標には標準純音聴力検査：オーディオグラムを活用し、聴力レベルが正常～軽度までに

回復された患者様を効果ありとしています。結果です。A 群では対象症例は 10 症例。重度レベル、高度レベルの症例が正常、軽度レベルまで改善効果を認めました。B 群では対象症例は 8 症例。高度レベル、中等度レベルの症例が正常、軽度レベルまで改善効果が認めました。C 群では対象症例は 12 症例。中等度レベルの症例が正常、軽度レベルまで改善効果が認められるも重度、高度レベルの症例にはあまり改善効果が認められませんでした。最後に D 群では対象症例は 6 症例です。重度、高度、中等度レベルの全ての症例に対し正常、軽度レベルまで改善効果が認められませんでした。突発性難聴は発症早期に入院治療を開始することにより改善効果が大きく左右されます。症状が残り通院治療を経て最終的には補聴器装着という選択が上がります。他院の耳鼻咽喉科と連携を取ることによって改善効果と今後の生活習慣が大きく左右されると考えられます。今回は耳鼻咽喉科との連携報告ですが、今後は連携強化を図るにあたり、他分野・近隣病院との連携を実施していき、HBO の有効性を検証していき検討を重ねていきたいと思っています。

